

第34週の発生動向 (2005/8/22 ~ 2005/8/28)

1. 咽頭結膜熱は、**青森保健所管内、上十三保健所管内**で引き続き**警報**が出されています。
2. 手足口病は、**上十三保健所管内**で引き続き**警報**が出されています。
3. 伝染性紅斑は、**むつ保健所管内**で引き続き**警報**が出されています。
4. ヘルパンギーナは、**青森保健所管内、弘前保健所管内、上十三保健所管内、むつ保健所管内**で引き続き**警報**が出されています。

第34週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱	8	1.00							4	0.67	2	0.50	14	0.33	2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.13	5	0.50	3	0.33	1	0.20	4	0.67			14	0.33	3
(62) 感染性胃腸炎	13	1.63	15	1.50	1	0.11			4	0.67	8	2.00	41	0.98	14
(63) 水痘	1	0.13	2	0.20	2	0.22	4	0.80	10	1.67			19	0.45	0
(64) 手足口病	22	2.75	3	0.30	20	2.22	4	0.80	13	2.17	4	1.00	66	1.57	-25
(65) 伝染性紅斑	3	0.38	5	0.50	2	0.22			7	1.17	5	1.25	22	0.52	0
(66) 突発性発しん	4	0.50	7	0.70	8	0.89	1	0.20	11	1.83	5	1.25	36	0.86	22
(67) 百日咳															0
(68) 風しん									1	0.17	2	0.50	3	0.07	3
(69) ヘルパンギーナ	32	4.00	23	2.30	7	0.78	1	0.20	38	6.33	13	3.25	114	2.71	-34
(70) 麻疹(成人を除く)									1	0.17			1	0.02	1
(71) 流行性耳下腺炎	8	1.00	2	0.20	8	0.89	5	1.00	6	1.00	1	0.25	30	0.71	-3
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50	2	0.67	2	1.00	2	2.00	4	2.00			11	1.00	-1

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患)

青森保健所管内: 1人、八戸保健所管内: 2人、五所川原保健所管内: 1人 (17年計 11人)

(43) レジオネラ症(四類全数把握疾患) 上十三保健所管内: 1人 (17年計 1人)

(82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 2人 (17年計 93人)

感染症の窓

レジオネラ症

図1 レジオネラ症患者報告数

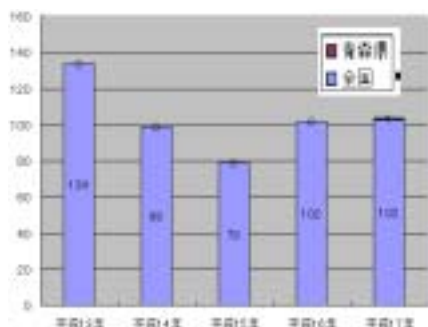
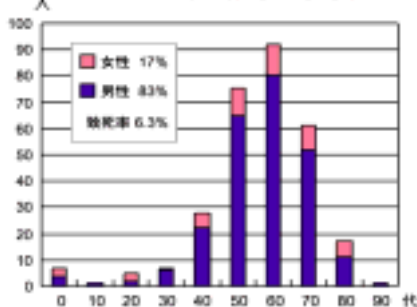


図2 レジオネラ症患者の性別年齢別分布  
1999.4~2001.12 (厚生労働省感染症発生動向調査)



レジオネラ症は、レジオネラ属菌による細菌感染症で、劇症型のレジオネラ肺炎と一過性のポンティアック熱があります。

レジオネラ肺炎は、7~10日の潜伏期間後に全身倦怠感、筋肉痛、乾性咳嗽等のほか、傾眠、幻覚等の中枢神経系の症状が見られます。患者は、50~70代の男性に多い傾向があります(図2)が、年齢に関わらず免疫機能が低下した人は肺炎を起こす危険性が高いので注意が必要です。

レジオネラ属菌は、自然環境中に普通に存在する菌ですが、循環水を利用した風呂、噴水、冷却塔等で増殖することがあります。このようにレジオネラ属菌に汚染された水の吸引やエアロゾルの吸入により感染します。循環水を利用した施設の適切な消毒または換水などの留意が必要です。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。